



1. 岩手大学三陸復興推進機構設置概要について

(1) 岩手大学三陸復興推進機構の設置について

平成23年10月に設置した岩手大学三陸復興推進本部（旧推進本部）を発展的に改組し、学則に基づく組織として岩手大学三陸復興推進機構（機構長 岩渕理事・副学長）を平成24年4月1日に設置した。

旧推進本部の6部門体制（①教育支援、②生活支援、③水産業復興推進、④ものづくり産業復興推進、⑤農林畜産業復興推進、⑥地域防災教育研究）を踏襲しつつ、各部門に特任教員や特任研究員等を新たに配置し、復興支援活動に携わる教職員数を拡充。また、久慈市にエクステンションセンターを平成24年4月3日に設置し、既存の釜石サテライトとともに三陸沿岸地域での活動体制を増強（今後、宮古市及び大船渡市にもエクステンションセンターを設置予定）。組織・人員の両面で体制を強化し、一層の復興推進を図る。

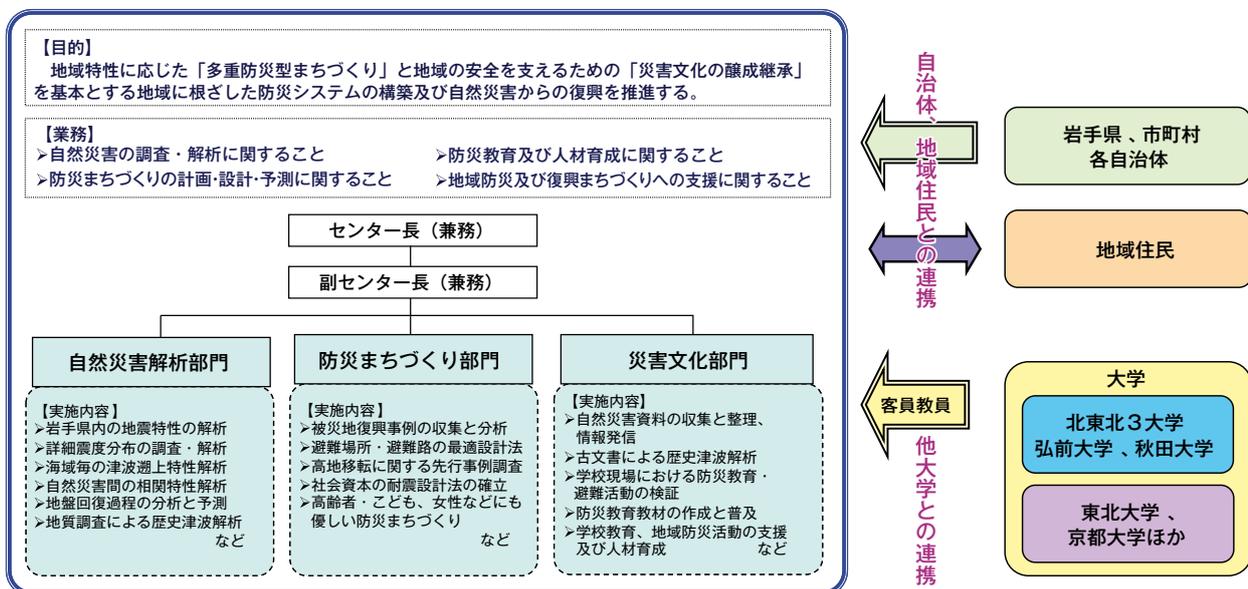
(2) 岩手大学地域防災研究センターの設置について

三陸をはじめとする東北沿岸のまちは地形や海域など置かれた環境がそれぞれ異なるため、これに個々に対応した防災・減災のシステムを検討し安全安心なまちづくりを進める必要がある。

岩手大学では、地域特性に応じた多重防災型まちづくり、地域主体のボトムアップ型防災システムの構築及び被災地復興支援を目的とする「岩手大学地域防災研究センター」（工学部附属地域防災研究センターを全学組織へ）を平成24年4月1日に設置した。センターは、東北大学工学研究科附属災害制御研究センター、弘前大学理工学部附属火山観測研究所、秋田大学工学資源学部附属地域防災力研究センター及び国、県、市町村等の行政機関と連携し、沿岸被災地域の防災計画に参画し「津波に強い施設づくり」、「災害に強いまちづくり」、「地域防災を担う人づくり」に貢献する。

岩手大学地域防災研究センター

平成24年4月1日設置



岩手大学三陸復興推進機構

平成24年4月1日設置

